

第 45 回宇都宮市民芸術祭 洋画・版画部門 審査総評

第 45 回宇都宮市民芸術祭洋画・版画部門の審査が 6 月 19 日（水）に行われた。今回の応募総数は奇しくも前年と同数の 113 点であったが、以前にもまして熱量のある作品が目立った。

市民芸術祭賞は郷間隆夫さんの水彩画「雨上がりの雷都」。今話題の宇都宮ライトレールを主題とした作品である。夜景は闇の部分が多くなるため、絵具の扱いが困難な題材である。この作品では、暗部のトーンのバリエーションの豊かさに加え、ライトレールの質感、車内の様子、雨上がりの映り込みなどが繊細に描写され、なおかつ全体が調和されている。

準市民芸術祭賞は 2 点選出された。1 点目は寺牛爽さんの「瞑想 寝室」。独特の世界観を持った作品である。適度に形が歪んだ部屋の物たちや俯瞰的な視点、画面の中心にライトが当たったような効果により、鑑賞者は絵の世界に引き込まれる。

もう 2 点目は緑川文和さんの木版画作品「リョウブの涙 S」である。多数のリョウブの花と雨の斜線の摺り合わせによって、心地よいリズム感と奥行感が生み出されている。また背景中央部に光りを感じさせることで、この雨はほどなく止むことを鑑賞者に想起させている。演出が秀逸である。

その他、今回は一般出品では個々の作者の作品に対する強い想いが感じられる作品、小品部門ではスタイリッシュな作品が多く見られ、受賞の選考に苦慮した。

ご高覧いただけると幸いです。

審査長 株田 昌彦